

農業経済学特論 I (2単位)

担当者氏名 立岩 壽一

◆学習・教育目標

この講義では、農業経済学の理論的枠組みとその応用について講義する。理論的枠組みの講義では、生産、価格決定、消費動向等に関する理論的枠組みを解説する。理論の応用では、国際的な農業をめぐる諸問題の動向を20世紀後半に焦点を当てて講義する。またEUの農業、地域問題等についても農業とEU加盟各国の経済的諸問題との関係で講義する

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

農産物価格 主要農産物の生産動向 地域経済 貿易
 国際経済 アメリカ農業 EU農業 先進国の農業問題

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	農業経済学の理論的基礎（第1～2週）	・一般経済学と農業経済学の共通点と独自性についてまたその基本課題を理解する。	本授業のねらいは、農業経済学の理論と分析方法を大学院生自らが発見して修得出来るように、最初は諸論解説からはじめ、徐々により専門的な課題を設定する。その後、教員と院生、院生相互の論議を実施する。特にテキストをまとめ問題点と課題を考え、常に自らの考え方を整理して発表できるようにすることが大切である。
2	国際農産物価格の動向（第3～4週）	・国際取引の多い小麦やトウモロコシ、大豆等を例にとり、価格変動のプロセスを解説するとともにその原因を解説する。	
3	アメリカ農業の特徴 I（第5～7週）	アメリカ農業および農業政策の特徴を解説し、その課題と方向性について解説する。	
4	アメリカ農業の特徴 II（第8～10週）	アメリカ農業と国際農業問題との関係を解説し、問題の解説方法を考察する。	
5	日本の農業問題・地域経済問題（第11～13週）	日本の農業・食料・農村をめぐる経済的諸問題を解説し、理解を深める。	
6	EUの農業問題・地域経済問題（第14～15週）	拡大が続くEUの農業をめぐる諸問題とその原因を解説し、EUにとっての農業をめぐる問題の意義を講義する。	
7			
8			

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

食料環境経済学を学ぶ/東京農業大学食料環境経済学科編（2007）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

地域経済と福祉/渋谷博史・立岩寿一・樋口均編著/学文社(2006)

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

授業での報告、積極的な議論への参加度で評価するとともに、テストを実施する。

◆その他受講上の注意事項

理論を創造するという創造的思考の楽しみを享受して頂きたい。